

●京都府立体育館

<p>課題・問題点等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は増加傾向にあり過去20年間で最高となったが、コスト面に着目し、ネーミングライツ料や施設使用料の見直しなど、更なる収益向上が図れないか検討が必要。 ・近隣の府県立体育館において、指定管理者制度が導入されている中、面積規模などの比較では運営コストに遜色はないものの、直営で運営する利点の整理が必要。
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □大規模リニューアルが完了し、他に代替できる施設も少なく、貴重な京都府の施設と言える。 □高い利用率から、府民に有効活用されている様子がうかがえる。 □リニューアル効果は認められるが、今後も引き続き効果検証が必要。 □更に高いレベルの施設を目指すにあたっては、長期的には、違う視点の経営センスを入れて行くことも大事ではないか。 □京都市内にある利便性をより活かし、様々なイベントの活用チャレンジいただきたい。 □ネーミングライツ料の増額や施設使用料の見直しなど、収益の拡大に向けた取組に着目してはどうか。
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p><施設運営に関する意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎リニューアルによる施設機能の充実に加え、好立地を活かし、引き続き、国際大会・大規模大会の誘致や府民ニーズに応じた催しの開催など、一層、利用者満足の上昇につながる取組を進めること。 ◎90%を超える競技場の稼働率から、稼働率向上の余地は少ないため、収益につながる興行イベントの誘致など、収益拡大策を検討すること。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○府民が一流のプレーに接する機会を提供し、府内のスポーツ振興を図る観点から、蓄積したノウハウを活用し、引き続き国際大会等の誘致に積極的に取り組むとともに、ネーミングライツ収入を活用した施設整備等により、よりよい利用環境づくりを進める。 ○立地条件を活かし、集客力や収益性の高いイベントを誘致するとともに、広告料収入の増加等による収入の増加に努める。